

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那特別支援学校

学校番号

117

学校教育目標	児童生徒一人一人の病気や障がいの状態に応じた適切な支援を通して、「児童生徒一人一人が輝く」教育を目指す
--------	---

自己評価【小学部】

評価する領域・分野	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣を身に付けるために保護者との密な連携が必要となる。 ・ 児童の一人一人の的確な実態把握を基に教育活動を計画・実施していることについて、保護者への情報発信が不足している。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領を基づき、体験的な活動や地域資源を活用し、教育内容の充実と改善を図る。 ・ 家庭との丁寧な連携と情報共有、分かりやすい情報発信に取り組む。 ・ 職員の危機管理意識を高め、疾病や事故の未然防止に向けた対策と安全教育の強化を推進する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年会、学部会、教科会、学年主任会を通じた取組の推進。 ・ 学部の役割や各々の分掌、専門性を活かした推進役の位置付け。 ・ 各分掌の取組との連携（教科会、キャリア教育、主題研究、学校安全等）。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に基づいた教育活動の計画・実施（発達段階や生活年齢に即した体験的な活動の設定や地域資源の活用。） ・ 「学習到達度」や「日常生活の指導」等のチェックリストの活用。 ・ 連絡帳や個別懇談等を通じた保護者との連携や通信等による情報発信。 ・ 安心・安全な学校生活を送れる教育環境の整備とヒヤリハット事例の共有と対応の徹底。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習評価 ・ 職員アンケート及び職員からの意見 ・ 連絡帳や懇談会での保護者からの意見や感想 ・ 学校評価アンケート
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然体験学習等や校外学習、買い物学習等、地域資源を活用した体験的な学習を計画・実施した。 ・ チックリストを定期的に記入し、実態把握を行った。 ・ 通信や連絡帳や懇談等で児童の様子を保護者に伝え、共有した。 ・ ヒヤリハットが起きた際は、速やかに報告し、必要な事後対応を行った。
評価の視点	評価
① 児童一人一人の目標に対する学習の成果や、もてる力の伸長が認められたか。	A (B) C D
② 学習指導要領に基づいた学習の計画・実践・評価を実施することができたか。	A (B) C D
③ 保護者との丁寧な連携や情報共有、分かりやすい情報発信ができたか。	A (B) C D
④ 児童の健康・安全を守るために、組織的に取り組むことができたか。	(A) B C D
成果・課題	総合評価
<p>○学級や学年会で共通理解を深め、体験的な活動を取り入れた支援や授業内容を計画・実施・改善したことで、児童が自分のできるが増え、成長につながった。</p> <p>○保護者に対して、学級通信や連絡帳、授業参観等を通して学習内容やねらい、児童の様子を丁寧に伝え、共通理解を図ることができた。</p> <p>○ヒヤリハット報告等を通して職員間で情報を共有し、危機管理意識を高めることで、安全に配慮した活動ができた。</p> <p>▲定期的に段階表やチェックリストの記録は行えているものの、職員間や家庭と共通理解を図りながら指導する点については、十分に組み立てていない。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段階的な体験的学習や地域資源を活用した学習を、指導と評価の年間計画に位置付け、実施する。 ・ 段階表や日常生活チェックリストの定期的な記録を継続し、その結果を基に学級で指導方法や学習内容を計画する。また、家庭との共有を図るため、懇談等の機会を活用して保護者へ情報を伝えていく。 ・ 交流籍交流の意義を学部で確認し、交流校や保護者と共通理解を図ったうえで、ねらいや活動内容等についてメール等を活用しながら相談を重ねる。

自己評価【中学部】

評価する領域・分野	中学部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源や人材の活用と連携を図り、系統立てた学習を推進する。 ・連絡帳や通信、ホームページ等を活用しながら、学習活動の様子や内容を分かりやすく伝え、保護者との信頼関係の強化を図ることが必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみ等の基本的な生活習慣を確立する。 ・学年間で系統性をもたせた教育計画の作成と実施。 ・連絡帳や通信、懇談等を通して、保護者との効果的な連携を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任会や教科担当者会、学年会、学部会が連携した支援体制 ・校内および関係機関とのケース会議による校内外との連携会議
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育や自立活動、日常生活の指導の視点を大切にした3年間を見通した教育計画を作成する。 ・連絡帳や通信、HP、懇談等、連携ツールを活用した保護者との共通理解の形成を進める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価アンケート ・職員アンケートや職員からの意見 ・連絡帳や懇談会等での保護者の意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の系統性を考慮しながら、地域資源や人材を活用した校外学習・泊を伴う校外学習を計画・実施した。 ・教科会、学年会で系統性や関連性を見直し、次年度への共通理解を図った。
評価の視点	評価
①生徒が楽しく生き生きと学校生活を送ることができたか。	Ⓐ B C D
②生徒の情報が職員間で十分に伝わり、個々に応じた適切な対応ができたか。	A Ⓑ C D
③保護者や関係機関との協働・連携がとれたか。	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<p>○日常的に情報交換し、生徒理解や指導方針を共有してチームでの支援を進めた。</p> <p>○地域の方との活動や学習を通して、交流の輪が広がり、生徒が積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿がみられた。</p> <p>▲卒業後の進路を見据えた進路学習を系統的に計画し、充実させる。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や環境を活用した系統的な学習活動を仕組み、生徒自身が学ぶ目的、喜び、楽しさを感じ取ることができるようにする。 ・学年会や教科担当者会で、単元の学習のねらいを明確にし、支援や指導の在り方を共通理解して授業改善に取り組む。 ・卒業後の進路を見据えた進路学習の内容を充実させ、学習の様子や内容について、また学校に寄せられる進路情報を保護者に提供したり、共有したりしていく。

自己評価【高等部】

評価する領域・分野	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の経験を広げる学習活動の充実、生徒一人一人に合わせた学習内容や教材教具の活用等に取り組む必要がある。 ・関係機関等と連携した生徒指導や進路指導等の充実を図る。 ・教育活動に関する情報を、保護者をはじめ学校外に適切に発信する必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の発達段階や学習到達段階、希望する進路選択に応じた指導により、自己実現を目指すための基礎的、基本的な知識と技能を育成する。 ・家庭生活及び社会生活に必要な生活習慣や社会常識を育成する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内主任会や学年会、学部会を通じた取組の推進 ・各分掌の取組との連携（進路指導、生徒指導、キャリア教育等） ・校内、校外の関係諸機関との連携、相互の理解・協力
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や発達段階、社会の状況に対応する教育課程や授業内容の見直しと改善 ・自己理解や進路実現に向けた生活指導、学習指導の充実 ・学級通信やHP、連絡帳、懇談等を活用した情報発信や共通認識
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、企業内作業学習、現場実習（インターンシップ）の評価 ・連絡帳や懇談会での保護者からの意見や感想 ・学校評価アンケート及び職員からの意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年段階に合わせた教科指導、校外学習、学校行事等を計画・実施した。 ・授業や実習だけでなく、外部機関による研修会の実施等、自立や社会参加に向けた学習の場を設けた。 ・保護者に生徒指導や進路に関する情報を発信し、懇談等を活用して卒業後の生活について共通認識した。 ・専門家からの助言を参考にしていじめや問題行動への対応にあたった。
評価の視点	評価
① 生徒が主体的に学習活動に参加し、知識・技能を身に付けることができたか。	A (B) C D
② 進路実現に向けた学習指導や生活指導の充実を図ることができたか。	A (B) C D
③ 保護者や校内外の関係諸機関と連携し、協働して生徒個々の支援ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○行事（特に知新祭、宿泊学習）を通して生徒の行動や意識の変化が見られた。行事は目的意識が持ちやすく、ゴールまでの道筋が生徒と教師で合致しやすい。</p> <p>○作業での生徒の様子を、クラスを跨いで共有する機会が積極的にあり良かった。</p> <p>▲特に発達障がいの特徴が強い生徒へのルールやマナーを指導していく体制・提示方法など対応についての共通理解が必要。</p> <p>▲軽減できてきた部分もあるが、進路支援や生徒支援の担当への負担はやや大きい。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習や校外学習の内容および目標設定の見直し。 ・生徒指導における情報共有と、縦・横の連携強化。専門家への相談事業の効果的な活用。 ・進路指導主事、生徒指導主事と業務の重要な部分に精通し補佐できる教員を配置する。

自己評価【教務部】

評価する領域・分野	教務部
現状及びアンケートの結果分析等	・学校関係者評価では、地域連携による地域学習等に関する要望があり、さらなる取組の充実が求められる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高系統性のある教育課程の編成と教育の質の向上 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた地域や家庭との連携・協働 ・読書活動の推進 ・タブレットを始めとする ICT 機器の効果的な活用と機器の管理
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内、各学部間での情報共有と検討の場となる教科会の運営 ・教育課程編成委員会 ・学校運営協議会との連携 ・図書委員会との連携 ・ICT 推進学年担当と連携した 1 人 1 台タブレット活用の推進
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内と学部を超えての教科会を実施し、教育内容や指導方法等の改善を行うとともに、系統性のある教育活動と教育課程の見直しにつなげる。 ・教育方針の一つである「地域とともにある学校」の実現のために地域資源の活用を充実させていく。 ・学校運営協議会と連携し、地域資源の開拓を模索するとともに、教育計画へ反映する。 ・図書委員と連携を図り、児童生徒が読書に親しむことができるように、お話し会等の催し物を企画・実施する。 ・ICT を含めた学習支援にかかわる情報を効果的に活用できるよう教材の共有フォルダ等の整備と管理を行う。 ・ICT 推進担当と連携し、アバターロボット kubi を活用した具体的実践を行い、共有していく。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会、PTA 役員、保護者、関係機関からの意見 ・学部会、職員会、アンケート等による職員からの意見 ・児童生徒の学習状況
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程や支援と評価の年間計画の見直し ・地域資源活用の検討 ・図書活動の推進
評価の視点	評価
①家庭や地域と協力した教育活動が推進できたか	A (B) C D
②ICT を含めた学習支援にかかわる情報を効果的に活用できたか	A (B) C D
③児童生徒が必要な資質、能力を育むための学習活動が実施できたか	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○教科会で、支援と評価の年間計画について、学習指導要領をもとに、小中高の系統性を意識して整えることに取り組むことができた。 ○田口文庫からの寄贈により、図書の充実を図ることができた。また、図書委員会を中心に読み聞かせや読書の呼びかけを行うことができた。 ▲ICT の活用について、障がいや中重度の児童生徒の活用が難しい現状がある。 ▲地域資源の更なる活用を来年度に向けて検討しつつあるが、具体的な取組として描き切れない現状がある。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用は、全国的な動向や他校との実践交流から良いものを取り入れる。 ・地域資源の活用について、今実施している学習活動の中で、卒業後に地域生活、社会生活に必要な力を効果的につけるという視点から、活用できそうなものを検討し、支援と評価の年間計画に位置付ける。

自己評価【研修部】

評価する領域・分野	研修部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習プログラムを完成させるだけではなく、日々の授業実践に更に活かしていけるようにキャリアの視点を取り入れた授業実践、振り返りができるようにする。 ・職員のニーズを捉えながら、職員の資質・専門性を高め実践に生きる研修・研究となるよう内容や実施方法について更なる精選・工夫が必要である。
今年度の具体的なかつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究や校内研修を通して校内の教職員の専門性向上と教育実践の充実を図る。 ・校内研修や勉強会を通して教職員が主体的に学んだり、教え合ったりしながら専門性の向上を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進 主題研究（研究計画、研究の日、全校研究会） ・研修 校内職員研修計画、各種研修会等案内、各分掌の研修調整 ・研究会 岐阜県特別支援教育研究会 東海地区特別支援学校知的障害教育研究協議会
目標の達成に必要な具体的取組	<p>(1) 主題研究について 主題「自ら考え、学んだことを生活に活かそうとする児童生徒の育成」 ～キャリア教育に着目して～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① キャリア学習プログラム作成 ② グループごとの授業研究、授業公開 ③ 授業者支援を目的とした事前研、事後研の実施 ④ 職員アンケートを基にした1年のまとめを行う <p>(2) 研修について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各種研修会の実施 ② 研修部通信等での情報発信 ③ 県下の特別支援学校公開講座やその他研修会の案内
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究・研修に関する職員アンケートを実施し、活動の成果と課題を明らかにする。 ・アンケートや各グループの研究成果を基に、全校研究科等で成果を確認する。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業とキャリア教育とのつながりを意識した実践 ・単元計画を活用したグループごとの授業研究 ・ニーズに沿ったちょこっと勉強会の実施
評価の視点	評価
①指導力向上のために適切な研修の計画・実施や情報の提供ができたか。	A (B) C D
②卒業後を見据えた主題研究の活動を通して、教育内容について学部間の一貫性や系統性を整理し、共通理解が図れたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○ちょこっと勉強会にはたくさんの人が参加し、学び合うことができた。</p> <p>○東濃特支との交流授業研を実施し、若手の先生方の学びを深めることができた。</p> <p>○公開講座や公開授業、全校研究会を通して、児童生徒の見取り方についてキャリアの観点で理解を深めることができた。</p> <p>▲通信の発行が滞ってしまった。職員の知りたい情報を集約する必要がある。</p> <p>▲校外作品展の計画・準備等に早い時期から取り掛かり、スムーズな運営ができると良い。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研修を通して先生方がヒントを得られる研修計画・実施をしていく。 ・教育全体を通してキャリア教育について考察・授業実施し、まとめをする。 ・行事に関する取組は年間を見通して計画的に進める。 ・授業力向上促進事業を通し、若手の先生方の交流や学びを深める。

自己評価【特別支援部】

評価する領域・分野	特別支援部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の作成を通して、関係諸機関との連携した支援体制の構築について保護者にも周知されつつある。 ・案内の配布やホームページでの情報発信により保護者や関係者の地域支援センターに関する認知度は高まっている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を活用し、関係諸機関と連携した支援体制を整え、支援・指導の充実を図る。 ・特別支援教育についての理解・啓発や支援の充実を図るとともに、相談者の要請に適切に対応し地域支援センターとしての役割を果たす。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人を取り巻く支援体制の確認と諸機関との連携を図るための窓口の明確化 ・各学部・各学校の特別支援教育コーディネーターとの連携・協働 ・他分掌と連携した教職員の専門性向上のための情報発信 ・他校の特別支援教育コーディネーターやコア・ティーチャー、関係諸機関、専門家等の活用
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の策定を通じ、一人一人の関係機関を把握する。 ・研修部と連携し、資質の向上に役立つ情報収集や発信をする。 ・校内外のニーズに応じて、医療、福祉、労働等の関係諸機関との連携協力を図る。 ・必要に応じて地域の特別支援コーディネーターやコア・ティーチャー、関係諸機関、専門家等を活用する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の記載内容の確認 ・児童生徒の変容等の経過観察と情報交流 ・センター的機能事業実施状況や利用者からの意見 ・関係機関やPTA役員等からの意見
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の関連する項目について記入例の作成し周知を図るとともに、記載内容の確認をした。 ・行事における視覚支援、サービスの利用状況の把握、発達検査に関する業務に取り組んだ。 ・校内外の要請に応じて地域支援センターとしての業務を遂行した。 ・情報発信の場として他分掌と連携して公開講座や校外作品展を開催した。
評価の視点	評価
① 児童生徒を取り巻く支援機関を明らかにし、連携を図ることができたか。	A (B) C D
② 必要な情報や役立つ情報を提供し、支援の充実を図ることができたか。	A B (C) D
③ 各所との連携を図りセンター的機能のニーズに対応することができたか。	A (B) C D
④ 地域の諸学校や保護者への情報提供を工夫し、理解・啓発が図れたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒をとりまく支援機関について情報を整理することができた。 ○分掌としての年間の業務内容について把握できた。 ○様々な機会を活かしてセンター的機能に関する周知を図った。 ▲校内の児童生徒への支援にどのように携わっていくのかが分かりにくかった。 ▲校内外への支援状況について各担当者間で共有できるとよい。 ▲校外作品展の計画・準備に早目に取り掛かるとよかった。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の作成だけにとどめず、どのように活用していくのかについても情報を収集・整理し、共通理解を図る。 ・校内支援における役割を明確にし、各学部・分掌と連携した体制を整える。 ・行事に関する取組は年間を見通して計画的に進める。

自己評価【 健康安全部 】

評価する領域・分野	健康安全部	
年間目標	児童生徒及び職員の健康・安全のために、傷病・事故災害の発生を未然に防ぐための危機管理、傷病・事故災害発生時の危機管理、事後の危機管理について、職員全体で組織的に取り組む。	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携し、児童生徒の健康管理に気を配っている。 ・児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応を行っている。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>三つの柱：健康・安全教育、健康・安全管理、組織活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育・安全教育・食育の推進 ・危機管理・安全管理に関する情報発信による事故や傷病の未然防止 ・防災教育の推進 ・保護者や関係機関、地域との連携や協力体制づくりの推進。 ・日常的な感染症予防（衛生管理）の組織的な取組 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会（学校医、管理医、学校薬剤師等）・医療的ケア検討委員会（主治医・指導医との連携）・食物アレルギー対応委員会・防災委員会・全職員による月一回の安全点検・学校安全衛生委員会（産業医との連携）・ヒヤリハットと事故報告 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア研修・緊急時対応訓練・食物アレルギー研修・救急救命法研修・歯みがき教室・ヒヤリハット報告の分析と対応・防災計画の改善・命を守る訓練と防災教育の取組の工夫・防災学習の見直し・アレルギー対応や異物混入への対応・健安ハンドブックの活用・日常的な感染症対策の呼び掛け 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の事故やヒヤリハット発生件数・医療的ケア検討委員会や学校保健安全委員会、安全衛生委員会での検討・消防署、安全点検チェック表や清掃状況のチェックと確認・各種訓練や研修会後のアンケートによる職員からの意見・児童生徒、保護者、職員へのアンケート 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師による医療的ケアの研修会や外部講師によるアレルギー研修会、学校歯科医による歯科指導研修会等、教員向け研修会を実施。また、アレルギー研修会後は校内の様式等の見直しを図った。 ・命を守る訓練、防災学習を外部講師と連携して実施した。 ・必要に応じて計画を見直し、医療的ケア児校外学習を安全に実施した。 	
評価の視点		評価
① 傷病・事故を予防するための危機管理ができたか。		A (B) C D
② 傷病・事故発生時に迅速且つ適切に対応することができたか。		A (B) C D
③ 傷病・事故発生時や災害発生時の対応について周知・徹底できたか。		A (B) C D
④ 外部専門機関との連携を図り、指導・助言を活かすことができたか。		(A) B C D
⑤ 保護者・地域関係機関に対して理解や協力を得られたか。		A (B) C D
成果・課題		総合評価
<p>○毎月発行する保健だよりを生徒が読んで分かる内容にするともに、学級内で便りをもとに指導する取組を行い、活用できる便りとして発行することができた。</p> <p>○医療的ケア児校外学習については、考えられるトラブルへの対応を引率職員・看護師で打ち合わせし安全に配慮して実施することができた。</p> <p>○学校医や消防士による保健の授業や地域の防災士による防災指導等、地域の指導者と連携し、専門的且つ分かり易い授業を行うことができた。</p> <p>▲ヒヤリハットの報告件数が少ない。報告者も限られている。</p> <p>▲感染症対策について、流行期には対策の呼び掛けをしたが、平常時から換気や手洗いの徹底を図っていくことが必要である。</p>		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット報告について、小さなことでも報告することを全職員に呼び掛ける。また、月毎のまとめの報告は、報告方法を見直し早めに報告する。 ・換気・手洗いなど基本的な感染症対策が身に付くよう、平常時から呼び掛ける。児童生徒の委員会活動でも健康や安全に日常的に取り組んでいく。 ・便りやホームページ等を活用し、各学年の防災の取組や行事を報告したり、気象警報の変更等新しい情報を発信したりしていく。 	

自己評価【生徒支援部】

評価する領域・分野	生徒支援部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が愛情をもって児童生徒に接し、良好な関係にある。 ・MSリーダーズ活動やボランティア活動等、将来の社会自立につながる力の育成が推進できている。 ・不登校対応やSOSの出し方についての研修の充実を図る。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導提要」の内容を校内で共通理解し、日常的な教育活動の中で発達支持的生徒指導を進める。 ・仲間とともに、生き生きと活動するために必要な態度や能力の育成をめざす。 ・関係諸機関との連携を図り、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた生徒支援に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援部、MSリーダーズを中心とした学校体制 ・児童生徒の共通理解が図れる連携体制 ・関係諸機関との日頃からの連携体制
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心した学校生活のための支援、社会生活に必要なルールやマナー指導等の安全に関する支援・指導の徹底 ・仲間とともに、自発的・主体的に活動できるような児童生徒主体の活動を実施 ・心のふれあいを大切にし、温かい人間関係を醸成する教育活動 ・児童生徒理解の深化、保護者や関係機関と連携した適切な教育相談活動の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学部会や職員会による意見 ・児童生徒の集団活動への参加態度 ・いじめの有無や児童生徒間の協力関係の把握 ・学校関係者評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対応としてSCや生徒指導の専門家を招いて教員向け研修会を実施した。 ・MSリーダーズを中心に挨拶運動やいじめ防止キャンペーンを実施した。 ・いじめ問題に対して必要に応じて弁護士や精神保健福祉士等の専門家にアドバイスをもらった。
評価の視点	評価
① 児童生徒が不安なく学校生活を送ることができたか。	A (B) C D
② 仲間とともに生き生きとした活動ができたか。	A (B) C D
③ 児童生徒の情報が職員間で十分伝わり、個々に応じた対応ができたか。	A (B) C D
④ 個々の児童生徒について必要な連携ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○不審者対応訓練や情報モラル教室では、警察と連携し、不審者マニュアルの作成を行ったり、近年の情報モラルトラブルの原因やその背景を教えてもらったりすることができた。</p> <p>○交通ルールの再確認、歩道や横断歩道の渡り方など、児童にも分かりやすく指導をいただいた。また、小学部高学年は傘を持って横断歩道を渡るなど、去年とは異なる学習もあり、とても良い交通安全教室になった。</p> <p>○生徒会や委員会では、各生徒が活躍できる場や活動が多くあり、より良い学校にするために、児童生徒が自ら考え、行動できる場面が見られた。</p> <p>▲特に情報モラルについては、日常的なところでも、継続的に指導していく必要がある。</p> <p>▲いじめに対する認識を教職員も児童生徒も身に付け、児童生徒がどうしていったらよいのかと自らの言葉遣いや態度を見つめ直せる機会を設けながら解決策をつけていける支援体制を作っていく必要がある。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も各学部や学年団で情報モラルについて学習、確認の場を設けていく。 ・専門家の意見を交えながら、いじめリーフレットの見直し、また、教員一人一人がいじめ問題に対する説明ができるようにする。

自己評価【進路支援部】

評価する領域・分野	進路支援部	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学部の早い段階から進路について各年代で付けておくことよき力について教務部・研修部と連携してキャリア教育の視点に沿った内容をわかりやすく提示する。 ・保護者が知りたい情報を収集し、通信やホームページ、研修会等で必要な進路情報の提供をしていく。 ・企業や事業所、関係各機関との連携を強化し、在学時から卒業後の生活に向けた環境整備の充実を図る。 ・作業学習や現場実習、製品販売会を通して勤労観・職業観を身に付けるとともに、将来に対する目的意識をもって自己の進路を主体的に選択決定できる能力や態度を育成する。 ・職場開拓及び関係機関へ繋ぐ支援や卒業生への追支援の充実。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先の決定、中高作業学習や RVB、実習等を通じた学年や学部との連携とキャリアパスポートの作成と活用等を通じた分掌間連携。 ・外部関係機関と連携した支援ネットワーク体制と交流、イベントの実施。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の状況や社会の動向に対応して各種実習や体験学習、作業学習、キャリアパスポート、職業に特化した取組についての見直しを図る。 ・福祉行政、福祉事業所、ハローワーク、職業訓練校等からの定期的な情報収集と通信、ホームページでの情報発信及びイベントの実施。 ・就業・生活支援センターと連携した追支援と職場訪問、職場開拓の実施。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や活動の目標達成度と適切な進路決定。 ・児童生徒、保護者、連携関係機関からの意見、感想。学校アンケート。 ・卒業生の就労、定着の状況。卒業生や就労先、関係機関からの意見。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だより・キャリアパスポート・作業学習集中週間（中）・現場実習、インターンシップ、企業内作業学習（高）、企業事業所見学（高）・合同説明会及び見学会（中高）・職業（高）・製品販売会（中高）・外部機関による出前講座（高）・卒後支援 	
評価の視点	評価	
① 個々の児童生徒に応じた進路学習ができたか。また卒業学年を希望に沿った適切な進路先へ繋ぐことができたか。	Ⓐ B C D	
② 提供できた情報は量、質ともに十分だったか。	A Ⓑ C D	
③ 外部との連携を図り、適切な卒後支援ができたか。また当校の理解啓発が進み、新たな職業や職場が開拓できたか。	A Ⓑ C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○行事ごとのキャリアパスポートの内容を見直し、個々の変容を捉えられるように改良を加え、児童生徒が成果について個々の内面についてより深く振り返ることができた。 ○校内外の販売会が拡大したこと作業製品の良さについての周知につながり、生徒の活動についての理解が深まってきた。 ○現場実習の意義を理解し、目指す進路先を切り開く力を付けることができた。 ▲販売会に向けての取組が教師主導になりがちであった。 ▲進路指導や進路決定において外部機関と連携して行っていることを保護者に周知していく。 	A Ⓑ C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会や通信・すぐー等外部機関との連携について情報発信していく。 ・在庫管理や販売促進について生徒が主体的に行っていくようにする。 	

自己評価【渉外部】

評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」
現状及びアンケートの結果分析等	・「学校は、ホームページや地域の広報、地域での作品展示等を通して地域に情報を発信している」という項目で、「あてはまる」という回答が一昨年は88%で、昨年は100%を達成。引き続き100%を目指したい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・各種委員会活動において、会員による主体的な計画、準備、運営を図る。 ・ホームページや学校だより等の情報発信に力を入れる。 ・災害時に対応できるPTA組織と会員の意識づくり。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学部間で連携できるような係分担、PTA各委員会の担当を決める。 ・PTA役員や会員との連携を図り、PTA活動を円滑に進める。 ・災害時に対応できるPTA組織と校内体制との連携を確立する。
目標の達成に必要な具体的取組	・PTAと学校担当者との連絡を密に行い、協力して円滑な活動を進める ・研修会を通してPTA会員の学びや交流の機会を図る。 ・学校ホームページ内容の見直し・更新。新着情報を定期的に発信する。 ・災害時に連絡・活動できるPTA組織づくりと危機意識を高める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・PTA役員会、各委員会が円滑に開催され、PTA行事が、役員、会員学校と連携して効率よく開催されたか。 ・学校ホームページを更新し、定期的に情報を発信することができたか。 ・災害時に対応できる組織づくりと危機意識はできたか。
取組状況・実践内容等	・ロックビレッジコンサート、役員会、校外会議等、予定通り実施した他、岩村城下町ふれあいウォーキング、防災に関するPTA研修会に他校PTAに参加を呼び掛けるなど、新しい取り組みも実施した。 ・「恵那市・中津川市 企業・福祉事業所等合同説明会」をPTA研修会として位置付けて、全学部・全学年に案内文書を配布した。さらに、企業・福祉事業所の見学会も同時に実施した。
評価の視点	評価
① 会員同士の連携を図り、自主的なPTA活動の推進、活性化を図れたか。	A (B) C D
② 学校ホームページにて定期的に情報を発信することができたか。	A (B) C D
③ 災害時に対応できる組織づくりとそれぞれの危機意識がもてたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○教育と福祉振興大会での発表、PTAの研修会や行事、PTAと職員の懇親会等、企画・運営をPTAが主体となって、どれも充実した内容で実施することができた。 ○学校HPをリニューアルすることができた。 ▲HP担当、学校だより担当者に、他学部の行事を把握し原稿を作成することで負担を増やしてしまった。 ○災害時に対応できる組織づくりについては、防災に関する研修会の実施や、災害時の連絡手段の一つとしてのグループLINEを作成し、防災テストメールの配信も行うことができた。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・PTA役員や会員と連携を密に取りながら、行事や研修会等の企画・運営等での自主的な活動の推進、活性化を図る。 ・渉外部と教務部に小中高それぞれHP担当者を置き、行事等の発信を活性化させる。 ・学校外での非常変災時の避難場所や安否確認方法等について、PTA総会等で会員同士で集まり確認する機会は継続する。

意見・要望・評価等

- どの学部も、一人一人の児童生徒の個性を大切に、できることを工夫して取り組んでいる。
- 地域にどのような資源があつてどのような活動ができるのか、この学校運営協議会の場で実現できそうなことを提案・共有され、教育活動に活かされている。
- 卒業後も学校と関わっていきたいと思えるように、学校の魅力を発信していくことができる。また学校だけではなく、学校を支えてくれている地域の魅力についても学ぶ学習を組み立てていくことが大切である。
- 児童生徒一人一人が社会に出ることを意識して、将来を見通した学習を継続し、指導していくことが大切である。町内での催し等で、一般の人に製品を売ったり、やりとりをしたりすることを通して、社会に出る力につながるとよい。
- 学校で学んだことを地域に出て体験的に学んでさらに力を付けていくために、どんどん地域に出て、豊富な地域資源を活用していくとよい。
- 在学中に地域の方の見守りがあるうちに、失敗を繰り返しながらも様々なことを経験できるとよい。
- 「ヘルプマーク」を付けて、配慮が必要なことを周囲に知ってもらうとともに、困ったときに「助けてほしい」と言える力を身に付けてほしい。
- 地域の公共交通機関を利用して、地元を知る活動をする。とよい。
- 地域の公共施設で作業製品等の展示ができるので、活用してほしい。また、地域でのいろいろなイベントに販売等で参加してほしい。
- 地域にまつわる偉人等の学習講座を開催しているの、児童生徒に参加してもらえるとよい。

【来年度に向けて】

- 町内の施設や人材の活用を推進
 - ・地域の公共施設、町内の体験プログラムの活用、町内の各種行事や学習講座への参加等を積極的に行う。
- 卒業後の生活を見通した学習の充実
 - ・積極的に地域で出て活動することを通して、児童生徒を知ってもらい理解を広げるとともに、地域のことを知り、生活経験の拡大を図る。

